

学年通信



自分たちで創る

和気愛愛



令和 8 年 9 月 30 日

福山市立福山中学校第3学年



全力で挑んだ、最後の体育祭！

中学校生活最後の体育祭は、みなさんの全力の姿を見ることができ、とても感動しました。みなさんの成長を実感することができ、本当にうれしく思います。練習では、応援リーダーが粘り強く声をかけ続け、その姿に仲間も応え、みんなの心が一つになっていきました。本番では3年生らしい姿を後輩や高校生、観客の皆様に見せることができました。どの団も最後まで全力を尽くし、熱い声援と笑顔にあふれた一日でした。

また一つ、大きな行事が終わりました。次は修学旅行です。実行委員や班長など、リーダーとしてみんなの前に立つ機会があります。自分から一步踏み出して役を務めることは、自分自身の成長につながります。そして、その一步は必ず誰かの力にもなります。自分のために、仲間のために、そして学年のために、またみんなで力を合わせて、一步ずつ前に進んでいきましょう。

一生懸命は、やっぱりかっこいい！！！！



緑団優勝おめでとう！

競技も応援もがんばりました！

感想

中学校最後の体育祭はとても楽しく、思い出に残る最高のものでした。一番印象に残っているのはやはり応援合戦です。最初は3年生だからお手本になるように頑張ろうと思っていたものの、100%の声は出ず、ダンスも全力で大きく堂々と踊ることができていませんでした。しかし、放課後の応援リーダーの話し合いに残った時、応援リーダーの熱意や必死さが伝わってきて同じ学年の私がこんなでいいのかと思うようになりました。それからの練習は100%の声が出せるようになりました。教室の練習のあと、応援リーダーに「めっちゃ声が出てたよ」と言われたときはとてもうれしかったです。本番では負けてしまいましたが、練習を頑張ったことや本番に笑顔で楽しく踊れたことが思い出として残り、悔しかったけどやりきることができてうれしかったです。

私はこの体育祭を通して大きく成長しました。一つ一つの練習の中での指示を出すとき、自分の思いを話すとき、練習の計画を立てるとき、それに沿って進めるとき、そのすべてにおいて成長することができました。でもこれは一人だったらやりきることができなかったと思います。一緒に頑張ってきた応援リーダーのみんな、それを支えてくださった先生、私たちの想いに応えようと頑張ってくれた赤団のみんながいたからこそ、私が頑張ることができたし、このようなステキな演技ができたのだと思います。一緒に頑張ってくれたすべての人に感謝しています。私はこの体育祭を通してたくさん成長しました。だけど、それ以上にたくさんの大切なことに気づかされました。協力することの大切さ、自分の気持ちを伝えることの大切さ、話し合うことの大切さなど、書き表せないほどのたくさんの大切なことを気づかされました。これからもリーダーとして頑張っていきたいと思いました。

私は3年生に進級して、緑組(3組)となった時、新しいクラスへのワクワクした気持ちと同時に、「緑組はずっと体育祭で優勝していないから勝つのは無理だな」というガッカリとした気持ちをもったのを覚えています。そのためか、夏休みの課題のダンスもただ覚えるだけで終わってしまい、新学期に入ってから「これくらいいいだろう」と思いながら練習していました。そんなスラスカした私を変えてくれたのが、応援リーダーや先生、クラスの仲間、1・2年生などの周りの人たちでした。応援リーダーは、「全力は本番になって急に出せるものじゃなくて、練習一回一回を全緑全笑で過ごしていかないと出せないものだ。」と何度も何度も伝えてくれて、私はやる気を出すことができました。先生は時に厳しい言葉を投げかけて、私に何度も「このままじゃダメだ」と心を入れ替える機会をくれました。このような仲間の全緑全笑を受けて、「私も一緒に全緑全笑したい」と思い、練習に積極的に取り組み始めました。本番の後、私の中には後悔はなく、「あ、もうこれ以上良い体育祭は無理だな」という達成感で満ち溢れていました。この全緑全笑を体育祭だけで終わらせず、これからも維持していきたいです。

